

かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む
調剤報酬改定の影響及び実施状況調査
報告書(案) <概要>

調査の概要①

1 調査の目的

- 本調査では、平成30年度診療報酬改定において、残薬解消や多剤・重複投薬の削減の取組など、薬局における対物業務から対人業務への転換を促すための措置を講じた。また、患者本位の医薬分業を進めるため、患者の服薬情報を一元的かつ継続的に把握することを目的とした、かかりつけ薬剤師・薬局の評価やいわゆる大型駅前薬局の評価の適正化等を行った。
- これらを踏まえ、本調査では、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師・薬局の連携方策も含め、医薬品の適正使用や患者本位の医薬分業のさらなる推進を図るため、かかりつけ薬剤師の取組状況や薬局における調剤報酬改定の影響について調査を行い、診療報酬改定の効果・影響を検証することを目的としている。

2 調査の対象

- ①保険薬局調査 合計2,000施設
 - ・かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っている保険薬局 1,000施設
 - ・かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っていない保険薬局 1,000施設
- ②診療所調査 合計1,000施設
 - ・地域包括診療料の届出施設(悉皆)
 - ・地域包括診療加算の届出施設 ・小児かかりつけ診療科の届出施設
- ③病院調査 合計1,000施設
 - ・特定機能病院(悉皆) ・地域包括診療料の届出施設(悉皆) ・左記以外の病院
- ④患者調査 上記①の対象施設に調査期間中に来局した患者2名(調査日からの来局順)
 - ・かかりつけ薬剤師指導料に同意している患者1名(いる場合のみ)
 - ・かかりつけ薬剤師指導料に同意していない患者1名

調査の概要②

3 調査方法

- 施設調査(①②③)は、自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ④患者調査(郵送調査)について、自記式調査票(患者票)の配布は、①の対象施設(保険薬局)を通じて行い、回収は事務局宛の専用返信封筒により患者から直接郵送で行った。
- 調査実施時期は、令和元年7月～令和元年9月

4 回収結果

- 保険薬局調査の有効回答数(施設数)は1,097件、有効回答率は54.9%であった。
- 診療所調査の有効回答数(施設数)は484件、有効回答率は48.4%で、病院調査の有効回答数(施設数)は456件、有効回答率は45.6%あった。
- 患者調査の有効回答数は、1,058件であった。

	発送数	有効回答数	有効回答率
①保険薬局調査	2,000	1,097	54.9%
②診療所調査	1,000	484	48.4%
③病院調査	1,000	456	45.6%
④患者調査	—	1,058	—

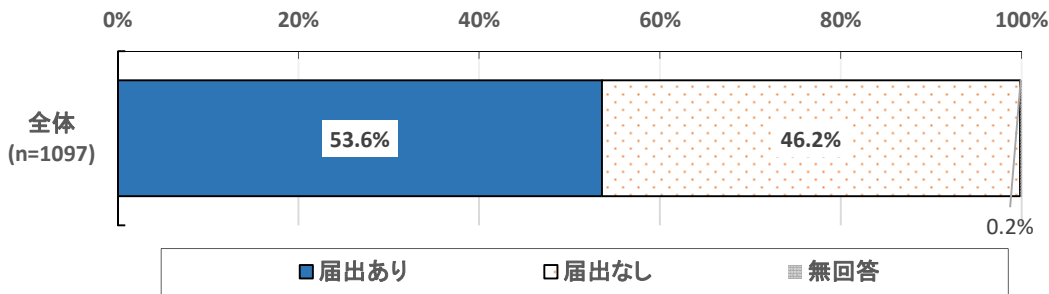
保険薬局調査の結果①

〈かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の届出状況〉(報告書p25,27)

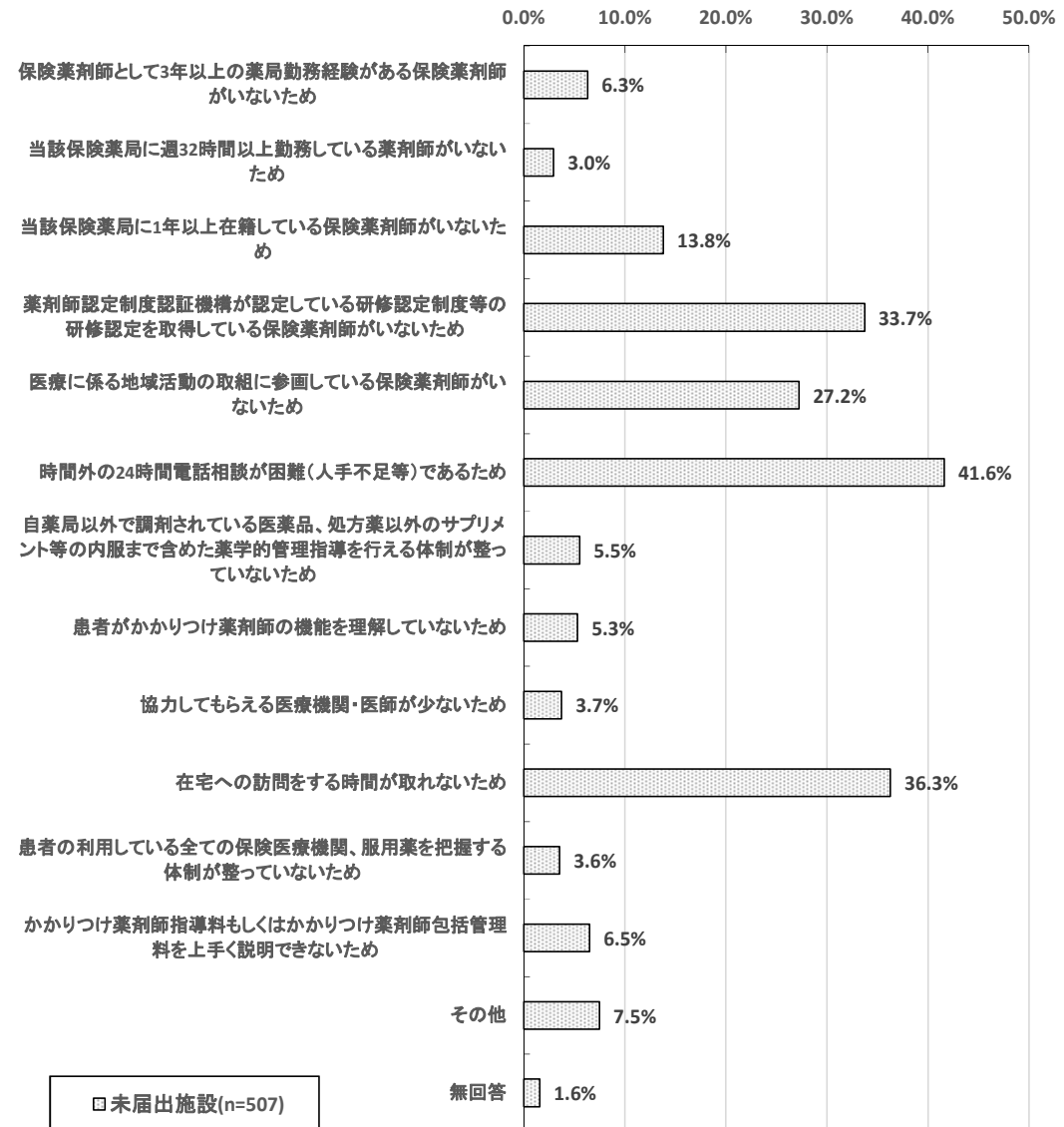
かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準の届出状況をみると、「届出あり」の割合は、回答のあった薬局のうち53.6%であった。

かかりつけ薬剤師指導料の届出なしである理由をみると、「時間外の24時間電話相談が困難(人手不足等)であるため」が41.6%と最も多かった。

図表2-3-1 かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の届出状況



図表2-3-3 かかりつけ薬剤師指導料等の届出なしである理由(「届出なし」と回答した薬局、複数回答)



未届出施設(n=507)

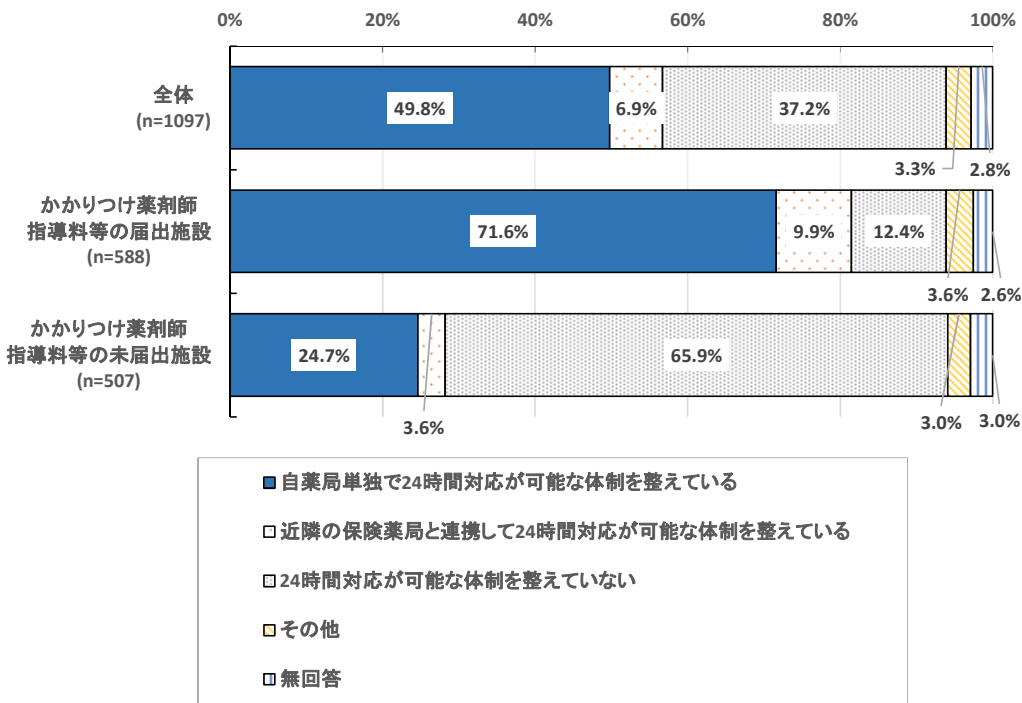
保険薬局調査の結果②

＜24時間対応が可能な体制の整備状況＞（報告書p22,23）

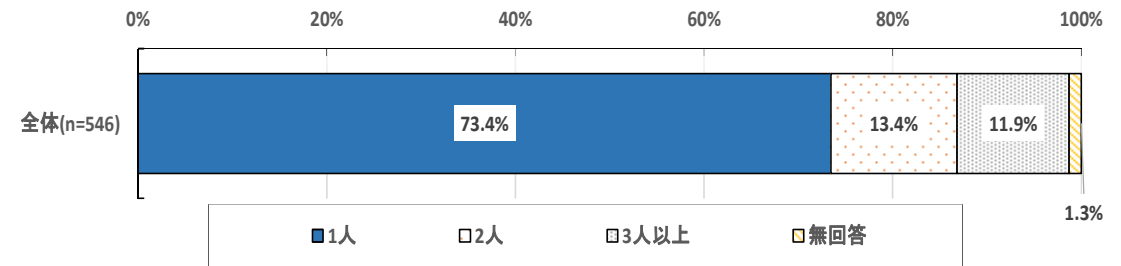
24時間対応が可能な体制の整備状況をかかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別にみると、届出施設では「自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている」が71.6%、未届出施設では「24時間対応が可能な体制を整えていない」が65.9%とそれぞれ最も多かった。

自薬局単独で24時間対応が可能な体制を整えている場合における、夜間等時間外の対応を担当している薬剤師数は、1人が最も多く、対応件数の分布は、0件が最も多かった。

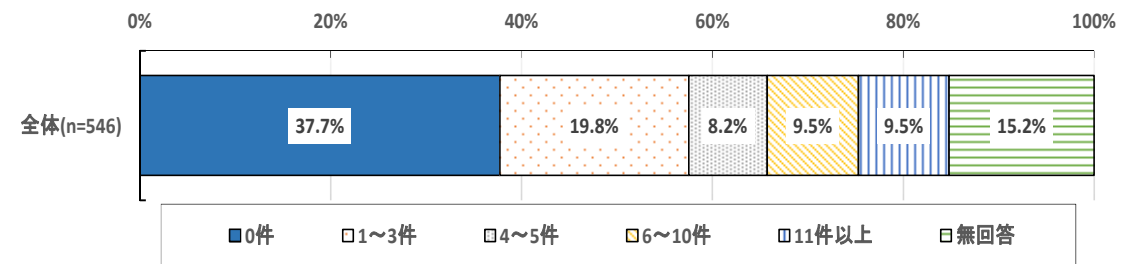
図表2-2-2 24時間対応が可能な体制の整備状況
（かかりつけ薬剤師診療料等の届出状況別）



図表2-2-2-1 夜間など時間外の対応を担当している薬剤師数の分布



図表2-2-2-2 夜間など時間外の対応件数の分布
（平成31年4月～令和元年6月の3か月間）



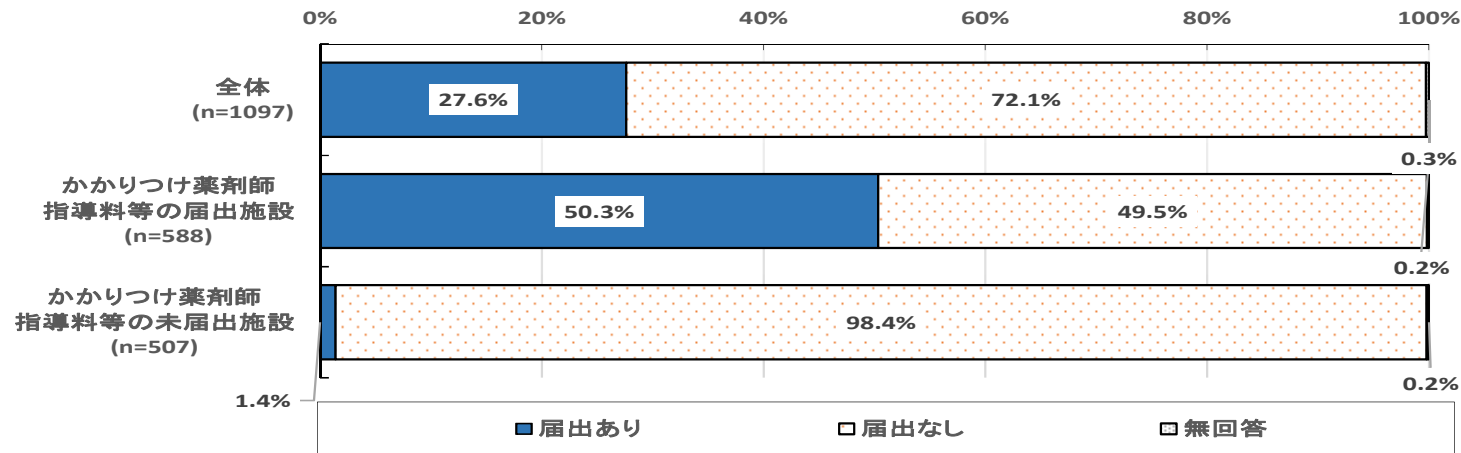
(注)「その他」の自由回答としては、以下の内容が挙げられた。
 ・ 薬局専用の携帯電話を夜間薬剤師が交代で自宅に持ち帰って対応している
 ・ グループ内薬局と連携して体制を整えている
 ・ グループ全体で、24時間対応携帯電話の輪番で対応している 等

保険薬局調査の結果③

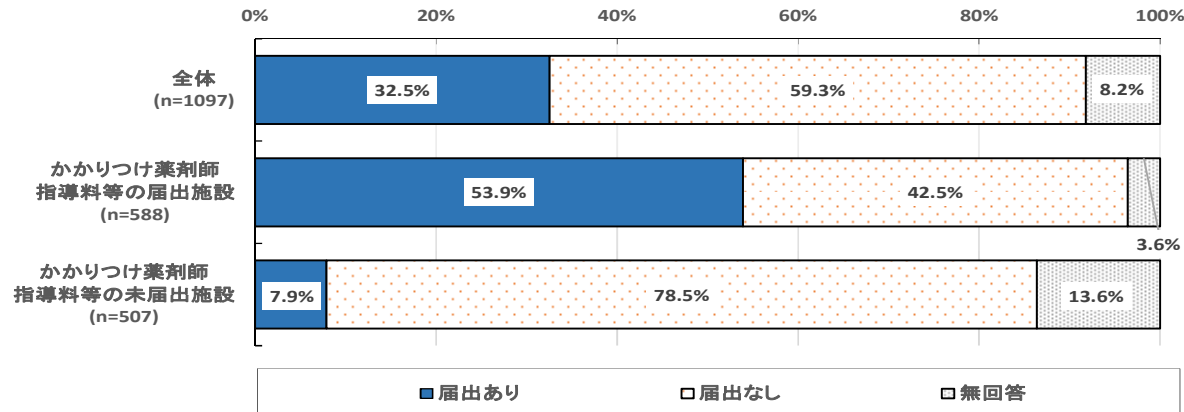
＜地域支援体制加算の届出状況＞（報告書p29）

地域支援体制加算の「届出あり」の割合は、27.6%であった。
また、地域支援体制加算の「届出あり」の割合をかかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別にみると、届出施設では50.3%、未届出施設では1.4%であった。

図表2-4-1 地域支援体制加算の届出の有無(令和元年6月)



図表2-4-1-1 基準調剤加算の届出の有無(平成30年3月)



保険薬局調査の結果④

＜地域支援体制加算の算定基準の中で満たすことが難しい項目＞（報告書p34,35）

【調剤基本料1を算定している薬局】

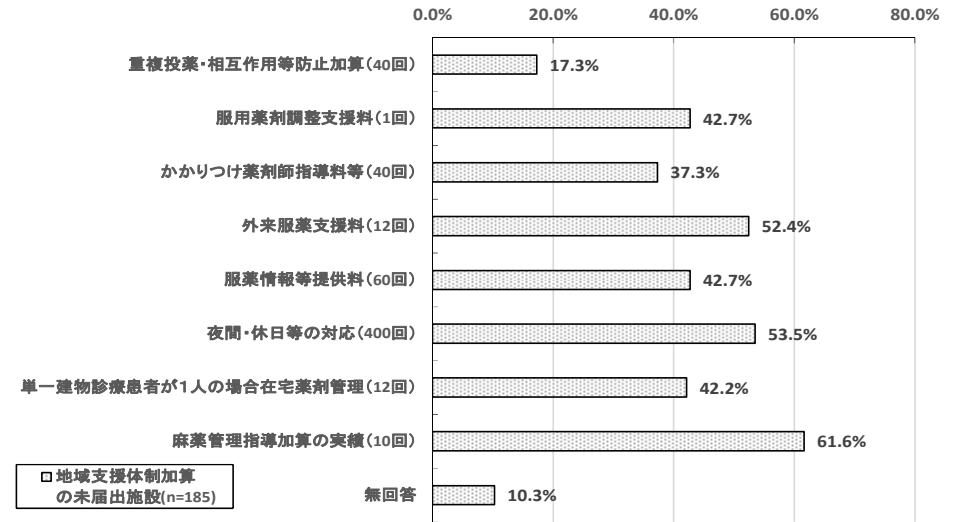
地域支援体制加算の未届出施設について、地域支援体制加算の算定基準の中で満たすことが難しい施設基準の項目をみると、「24時間、在宅対応体制・周知」が最も多く、54.4%であった。

【調剤基本料1以外を算定している薬局】

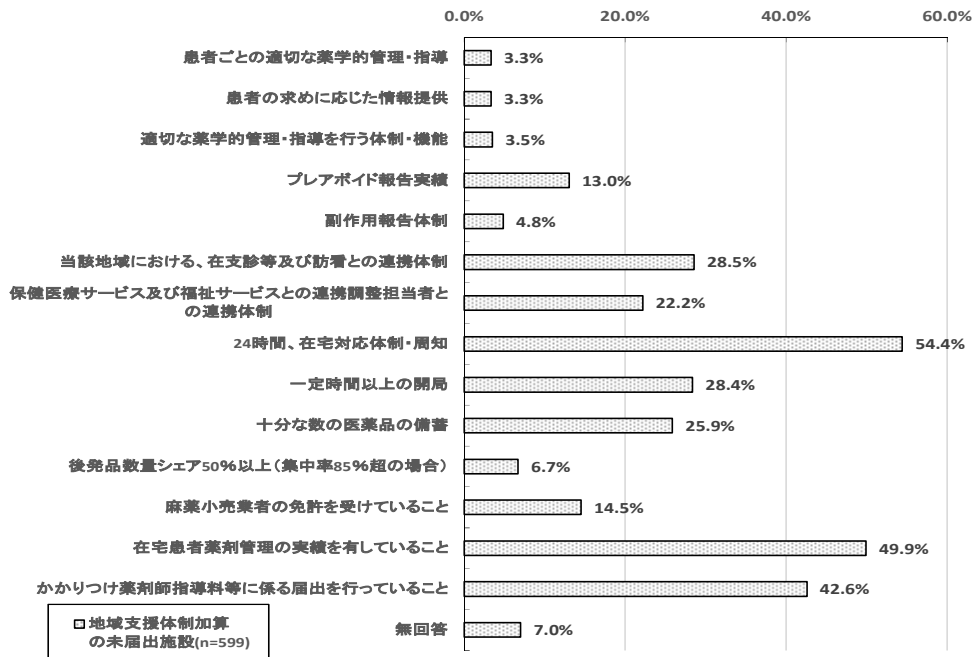
地域支援体制加算の未届出施設について、地域支援体制加算の算定基準の中で満たすことが難しい実績要件の項目をみると、「麻薬管理指導加算の実績(10回)」が最も多く、61.6%であった。

また、施設基準の項目をみると、「24時間、在宅対応体制・周知」が最も多く、36.2%であった。

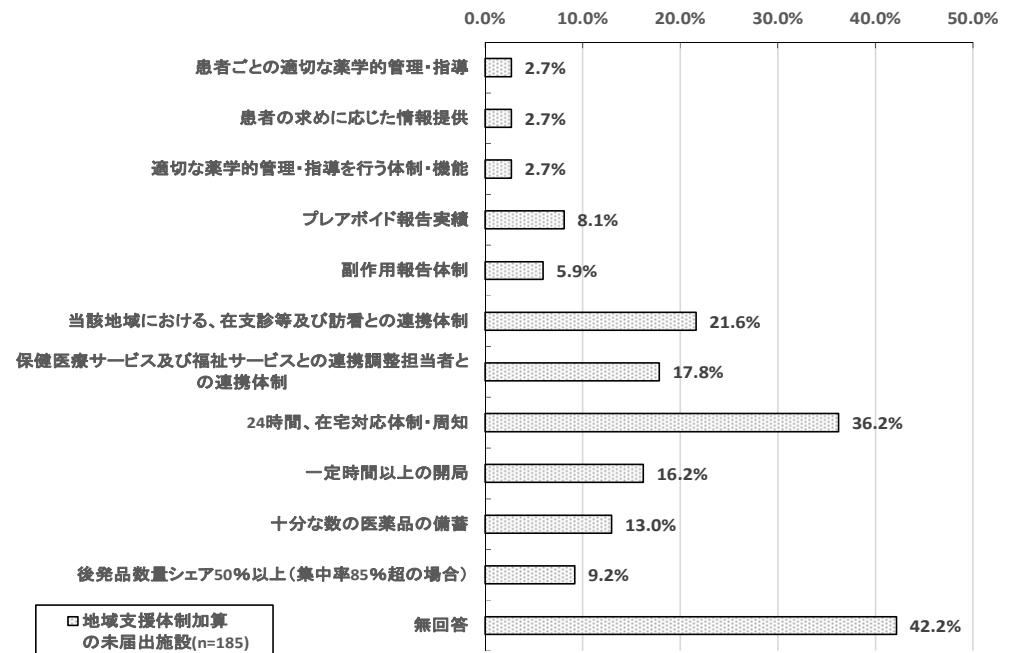
図表2-4-6 地域支援体制加算の算定基準の中で満たすことが難しい実績要件の項目（地域支援体制加算が未届出かつ調剤基本料1以外を算定している薬局、複数回答）



図表2-4-5 地域支援体制加算の算定基準の中で満たすことが難しい施設基準の項目（地域支援体制加算が未届出かつ調剤基本料1を算定している薬局、複数回答）



図表2-4-7 地域支援体制加算の算定基準の中で満たすことが難しい施設基準の項目（地域支援体制加算が未届出かつ調剤基本料1以外を算定している薬局、複数回答）



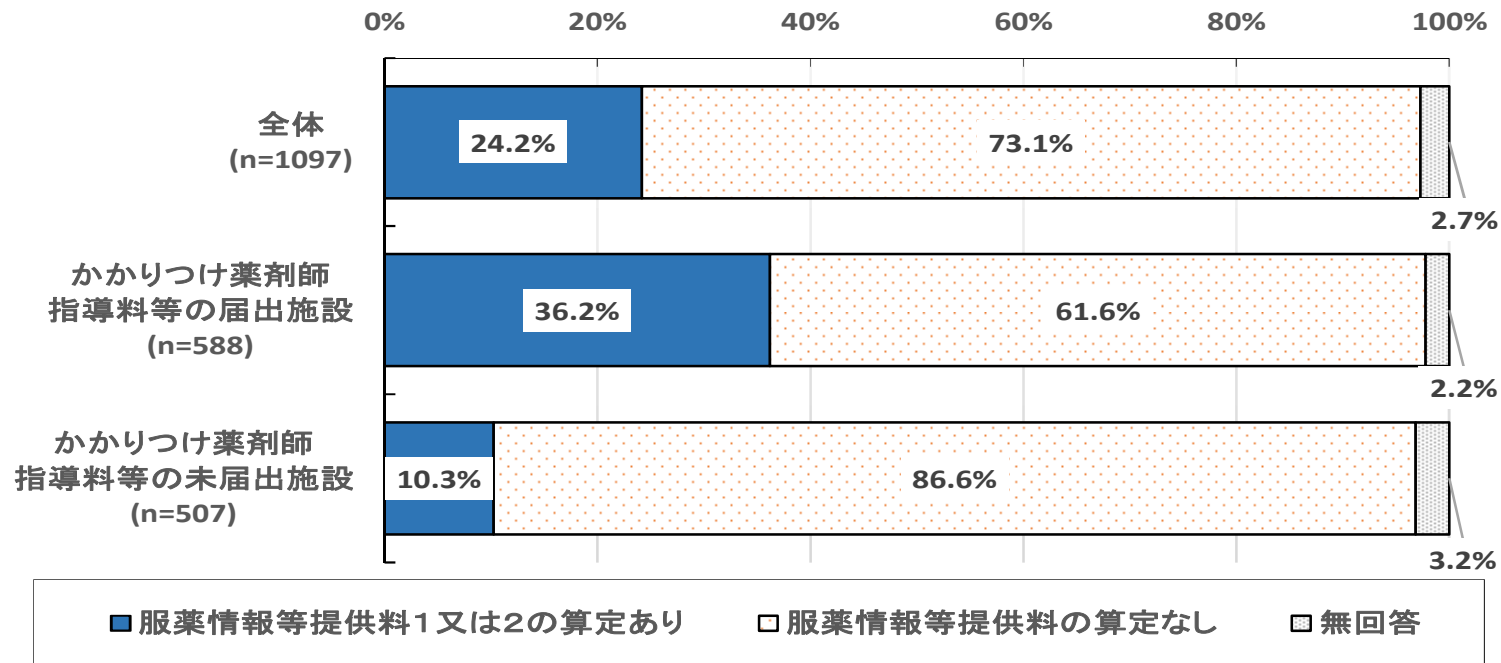
保険薬局調査の結果⑤

＜服薬情報等提供料の算定の有無＞（報告書p43）

服薬情報等提供料の算定状況をかかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別にみると、「服薬情報等提供料1又は2の算定あり」の割合は、届出施設が36.2%、未届出施設が10.3%であった。

一方、「服薬情報等提供料の算定なし」の割合は、届出施設が61.6%、未届出施設が86.6%であった。

図表2-6-1 服薬情報等提供料の算定の有無



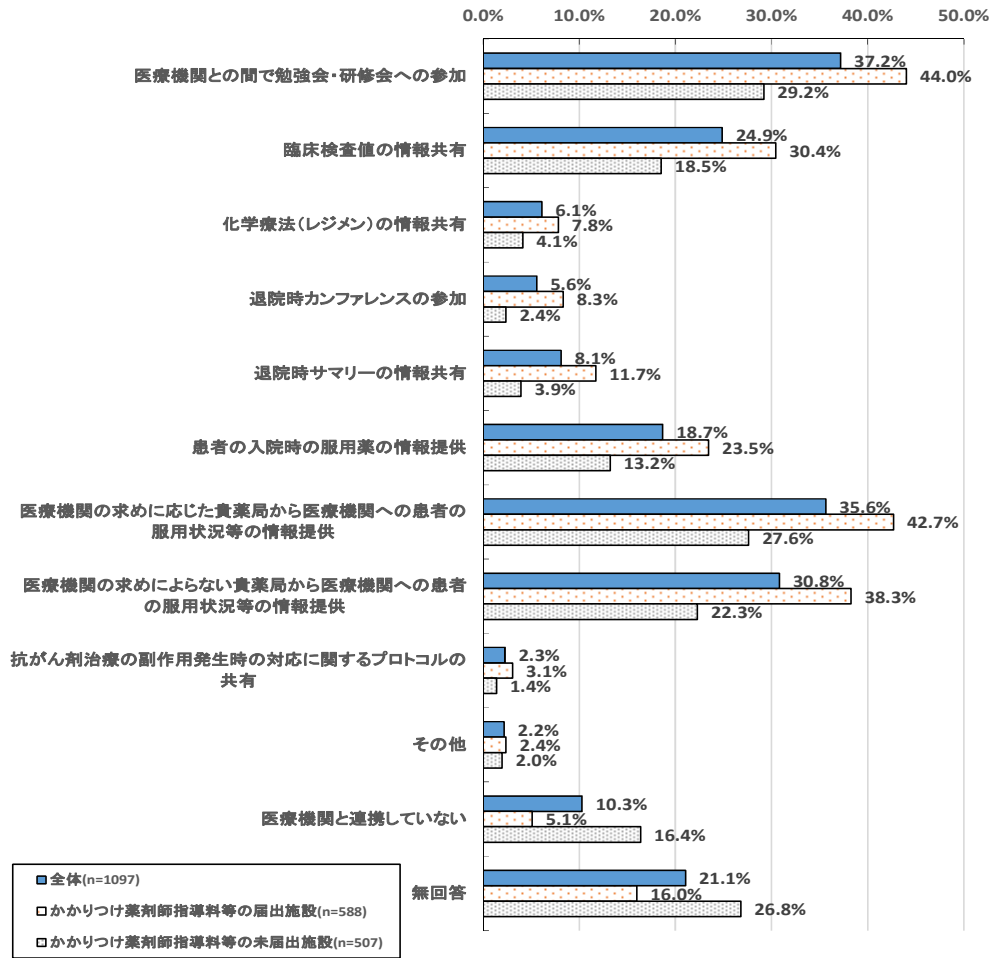
保険薬局調査の結果⑥

＜医療機関との連携内容(かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別)＞(報告書p46,47)

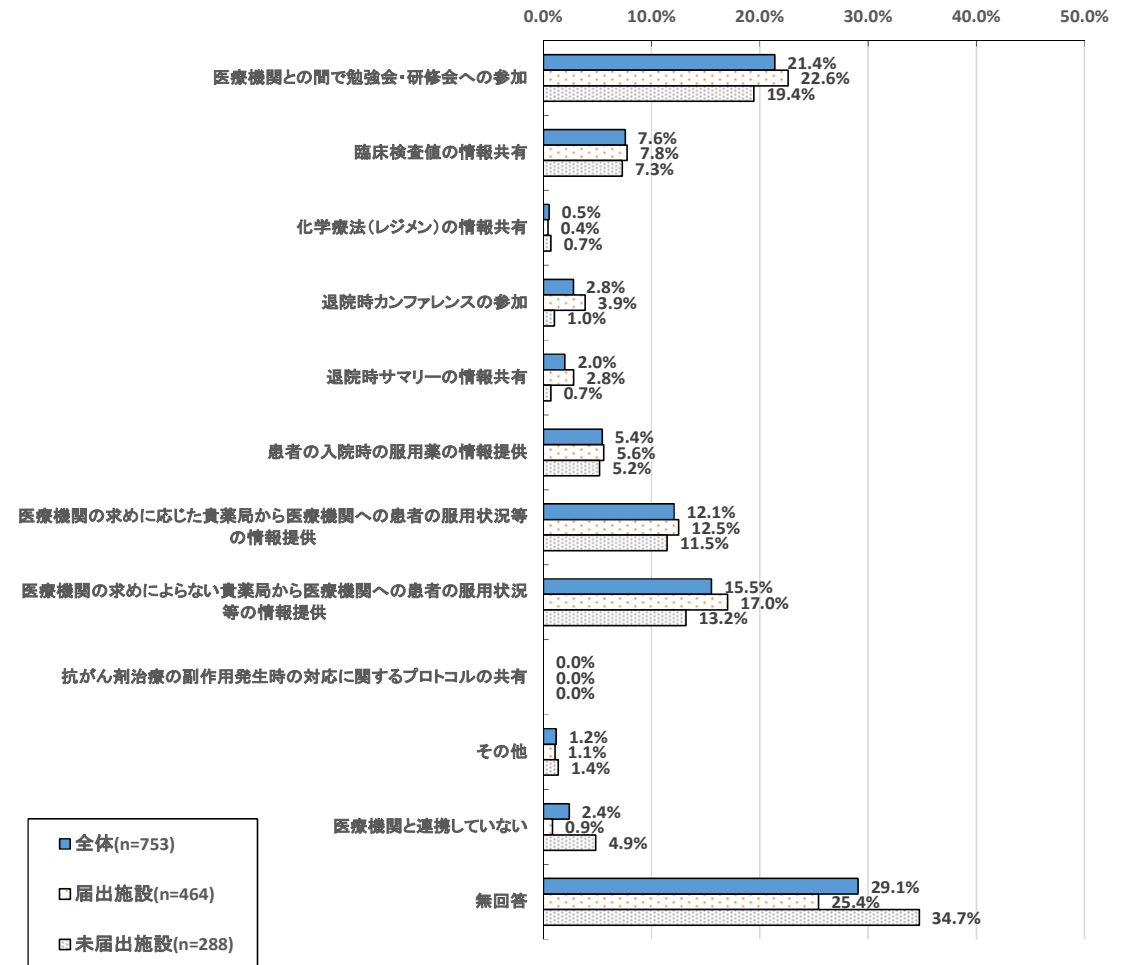
医療機関との連携内容をかかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別にみると、届出施設、未届出施設ともに「医療機関との間で勉強会・研修会への参加」が最も多く、届出施設が44.0%、未届出施設が29.2%であった。

医療機関との連携内容が無回答または「医療機関と連携していない」以外の薬局について、特に効果があったものは、届出施設、未届出施設ともに「医療機関との間で勉強会・研修会への参加」が最も多く、届出施設が22.6%、未届出施設が19.4%であった。

図表2-6-4 医療機関との連携内容
(かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別、複数回答)



図表2-6-4-1 医療機関との連携内容のうち特に効果があったもの
(かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別、単数回答)



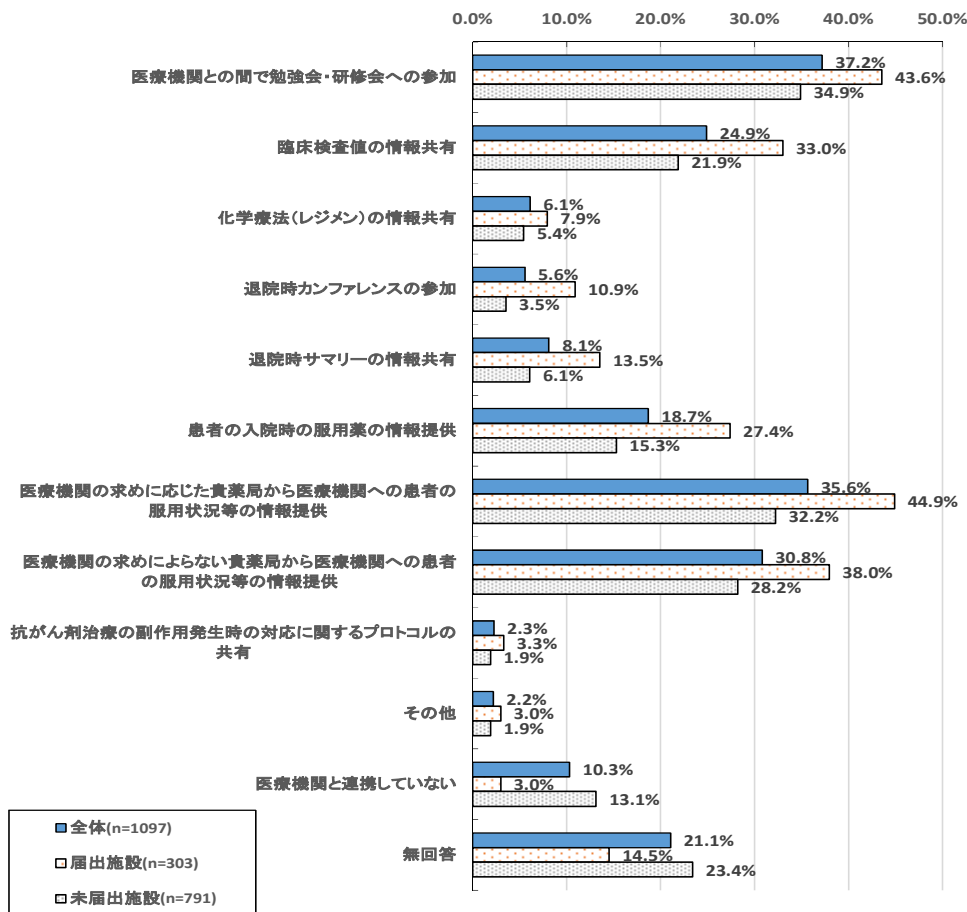
保険薬局調査の結果⑦

＜医療機関との連携内容(地域支援体制加算の届出状況別)＞(報告書p48,49)

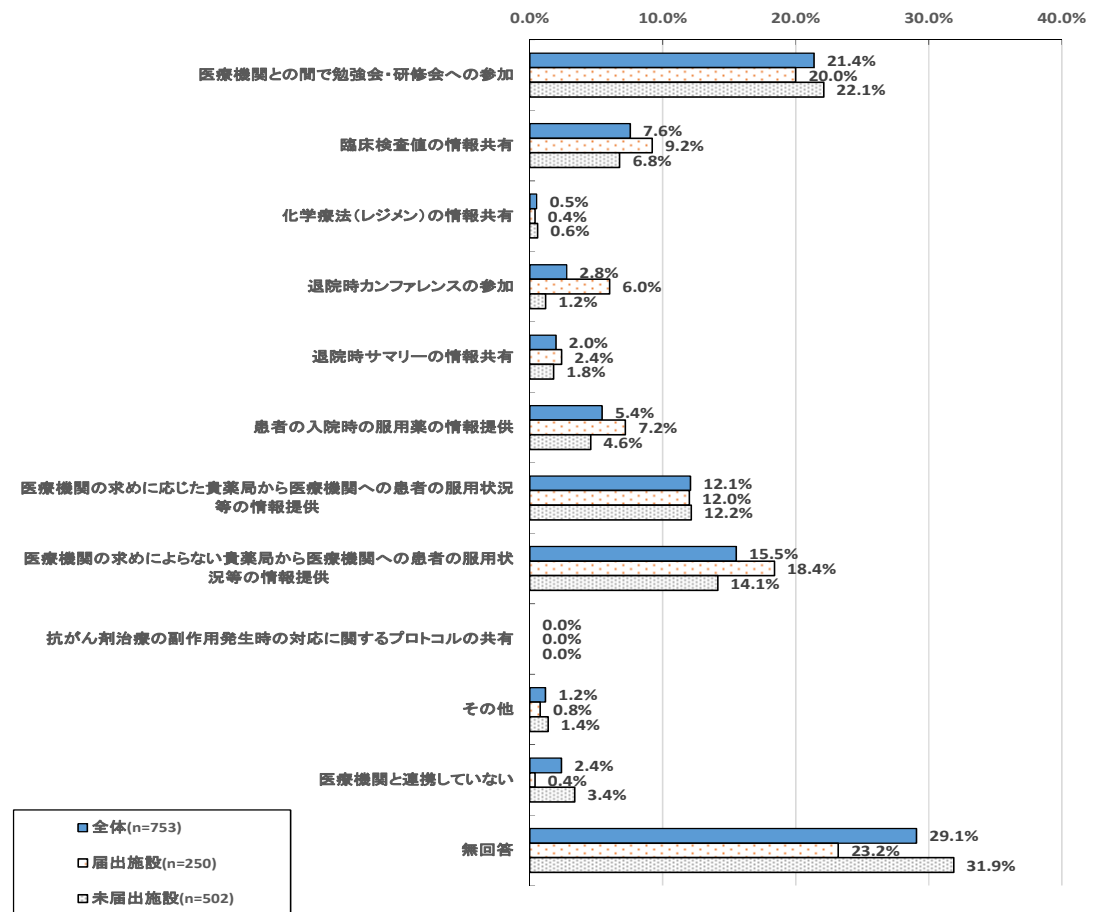
医療機関との連携内容を地域支援体制加算の届出状況別にみると、届出施設では「医療機関の求めに応じた貴薬局から医療機関への患者の服用状況等の情報提供」が44.9%、未届出施設では「医療機関との間で勉強会・研修会への参加」が34.9%とそれぞれ最も多かった。

医療機関との連携内容が無回答または「医療機関と連携していない」以外の薬局について、特に効果があったものは、届出施設、未届出施設ともに「医療機関との間で勉強会・研修会への参加」が最も多く、届出施設が20.0%、未届出施設が22.1%であった。

図表2-6-5 医療機関との連携内容
(地域支援体制加算の届出状況別、複数回答)



図表2-6-5-1 医療機関との連携内容のうち特に効果があったもの
(地域支援体制加算の届出状況別、単数回答)

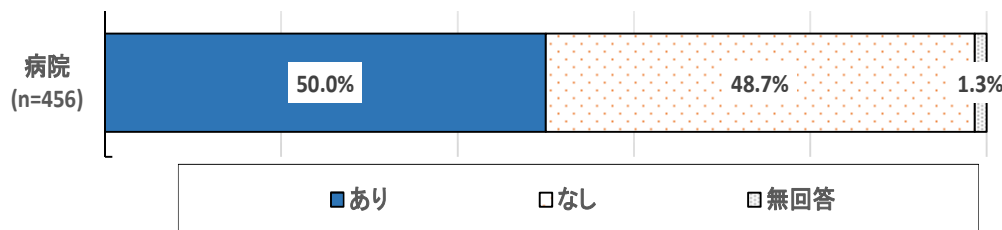


診療所・病院調査の結果①

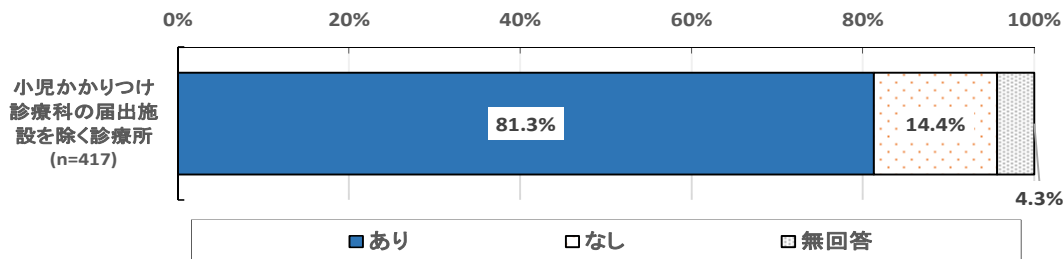
＜多剤・重複投薬の削減への取組の有無＞（報告書p68）

多剤・重複投薬の削減の取組の有無をみると、「あり」の割合は、診療所（小児かかりつけ診療料の届出施設を除く。）が81.3%、病院が50.0%であった。

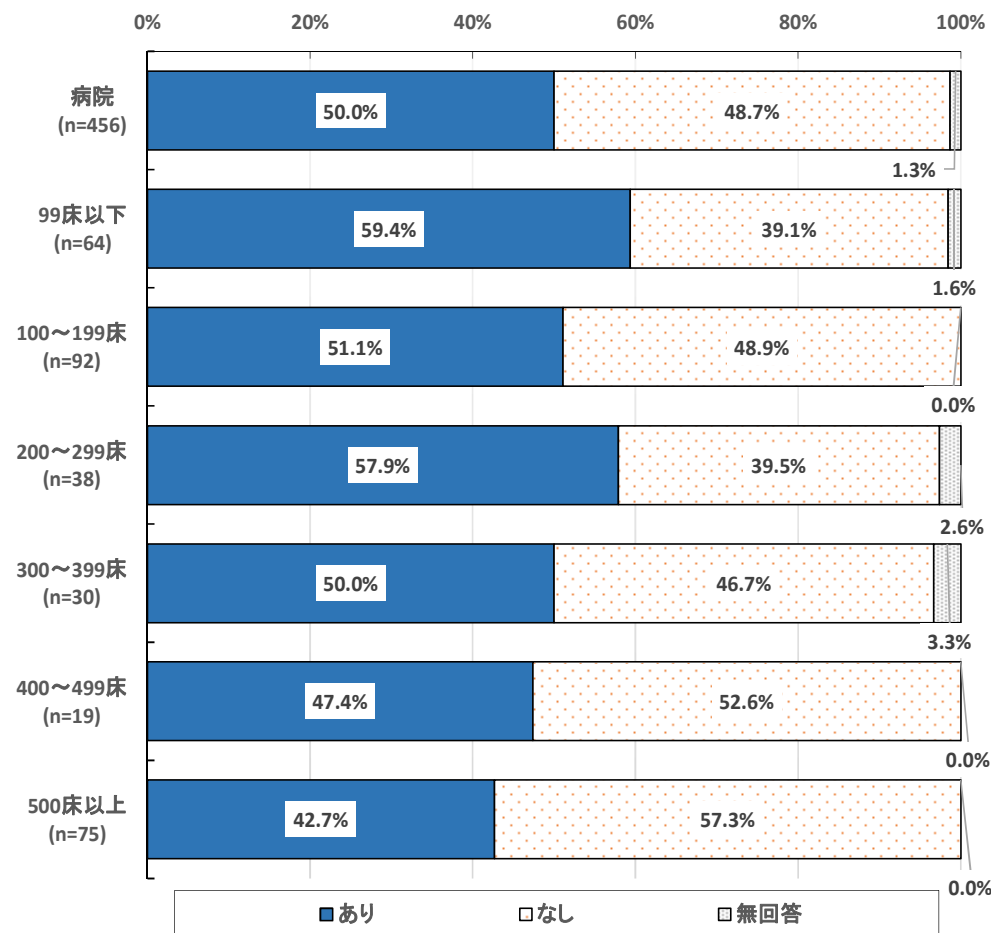
図表3-2-8 多剤・重複投薬の削減への取組の有無



図表3-2-8-1 多剤・重複投薬の削減への取組の有無
（小児かかりつけ診療料の届出施設を除く診療所）



図表3-2-8-2 多剤・重複投薬の削減への取組の有無（病院、病床規模別）



※病院全体には病床数が無回答の138施設を含む。

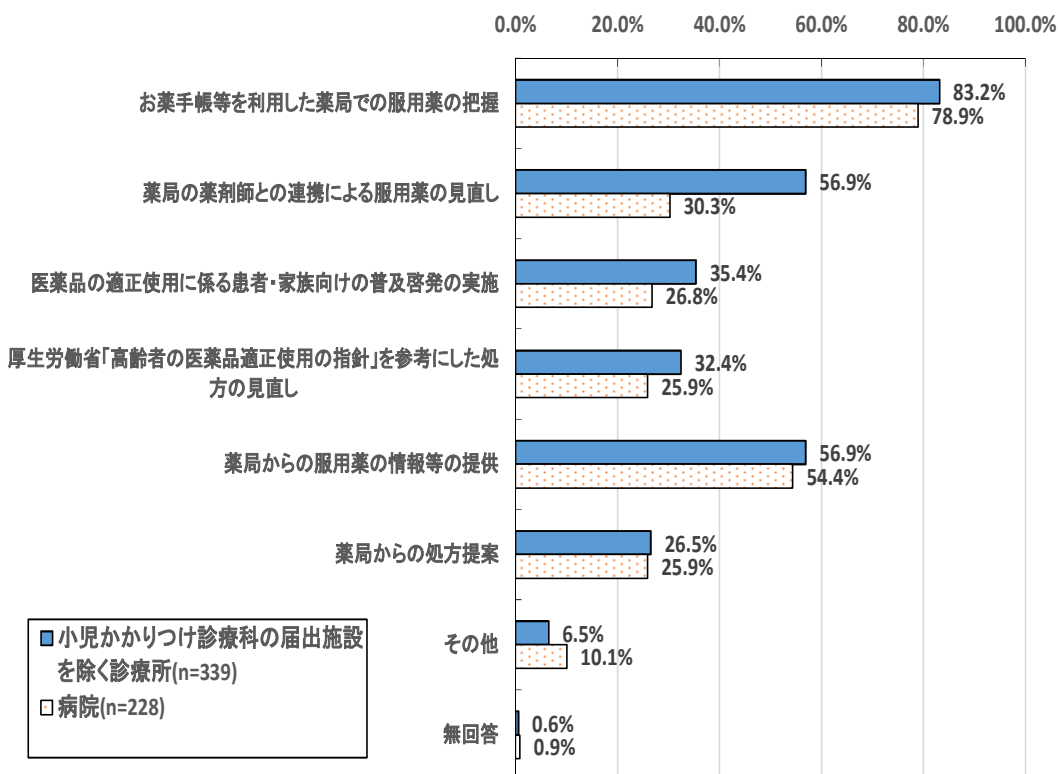
診療所・病院調査の結果②

＜多剤・重複投薬の削減への取組内容＞（報告書p69,70）

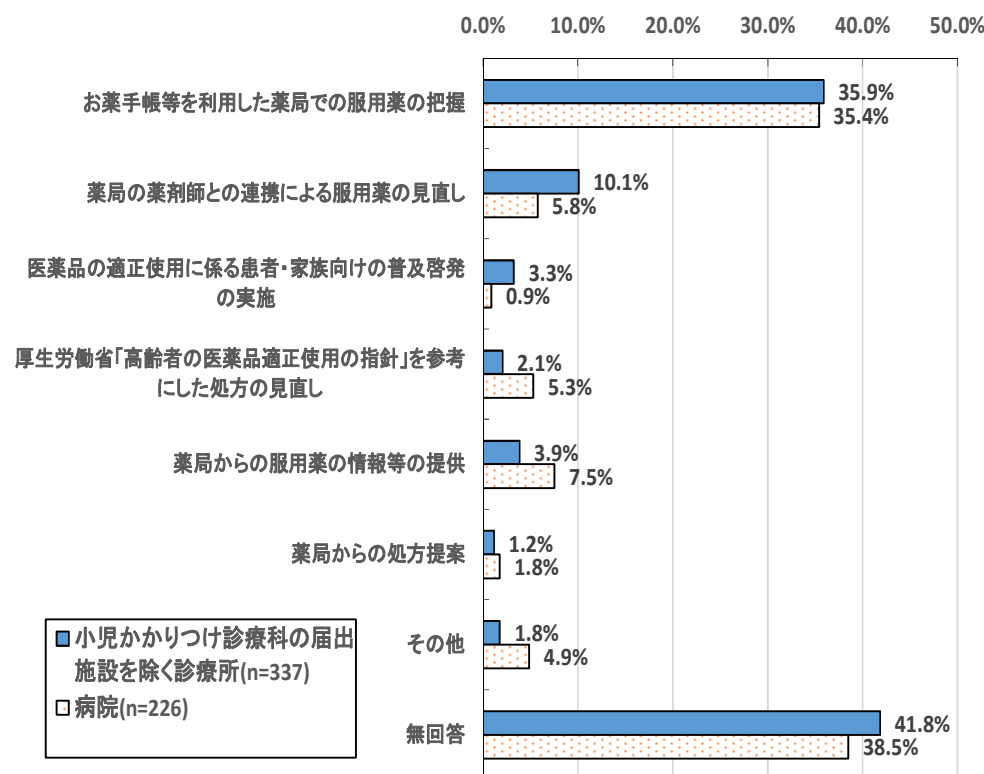
多剤・重複投薬の削減の取組内容をみると、診療所（小児かかりつけ診療料の届出施設を除く。以下同じ。）、病院ともに「お薬手帳等を利用した薬局での服用薬の把握」が最も多く、診療所が83.2%、病院が78.9%であった。

特に効果があったものは、診療所、病院ともに「お薬手帳等を利用した薬局での服用薬の把握」が最も多く、診療所が35.9%、病院が35.4%であった。

図表3-2-8-3-1 多剤・投薬の削減への取組
（「多剤・重複投薬の削減への取組あり」と回答した医療機関から小児かかりつけ診療科の届出施設（診療所）を除いた場合、複数回答）



図表3-2-8-4-1 多剤・投薬の削減への取組のうち特に効果があったもの
（「多剤・重複投薬の削減への取組あり」と回答した医療機関から小児かかりつけ診療科の届出施設（診療所）を除いた場合、単数回答）



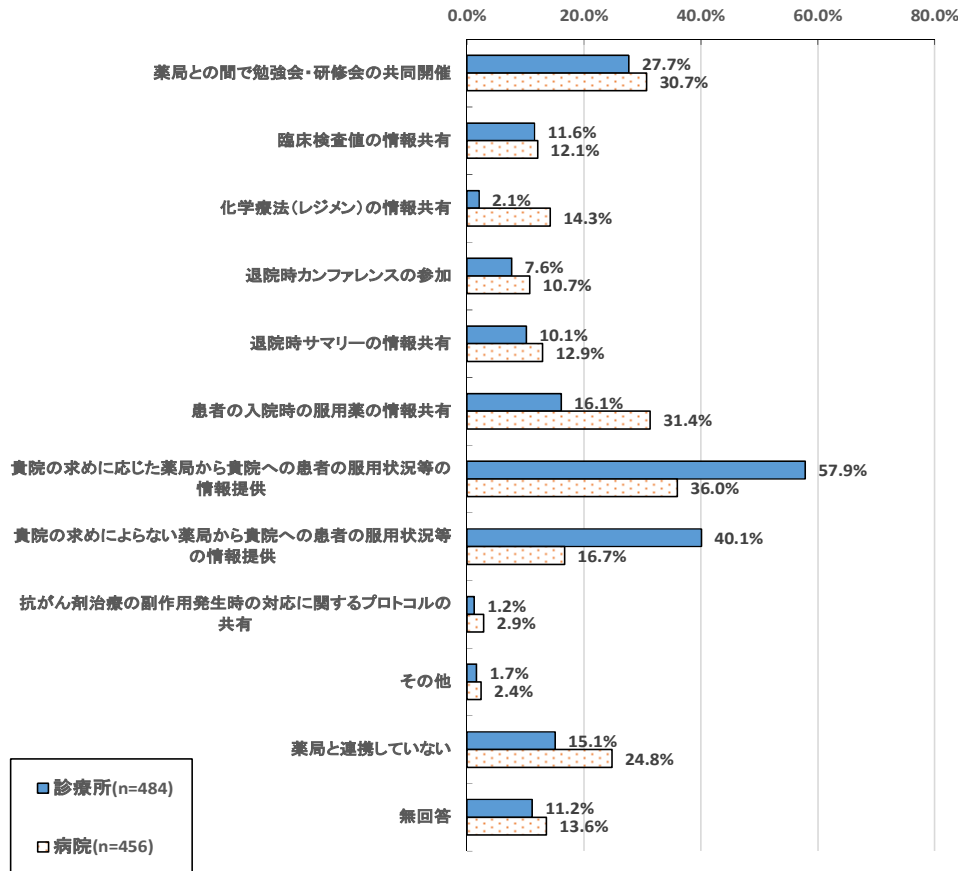
診療所・病院調査の結果③

＜薬局との連携内容＞（報告書p77,78）

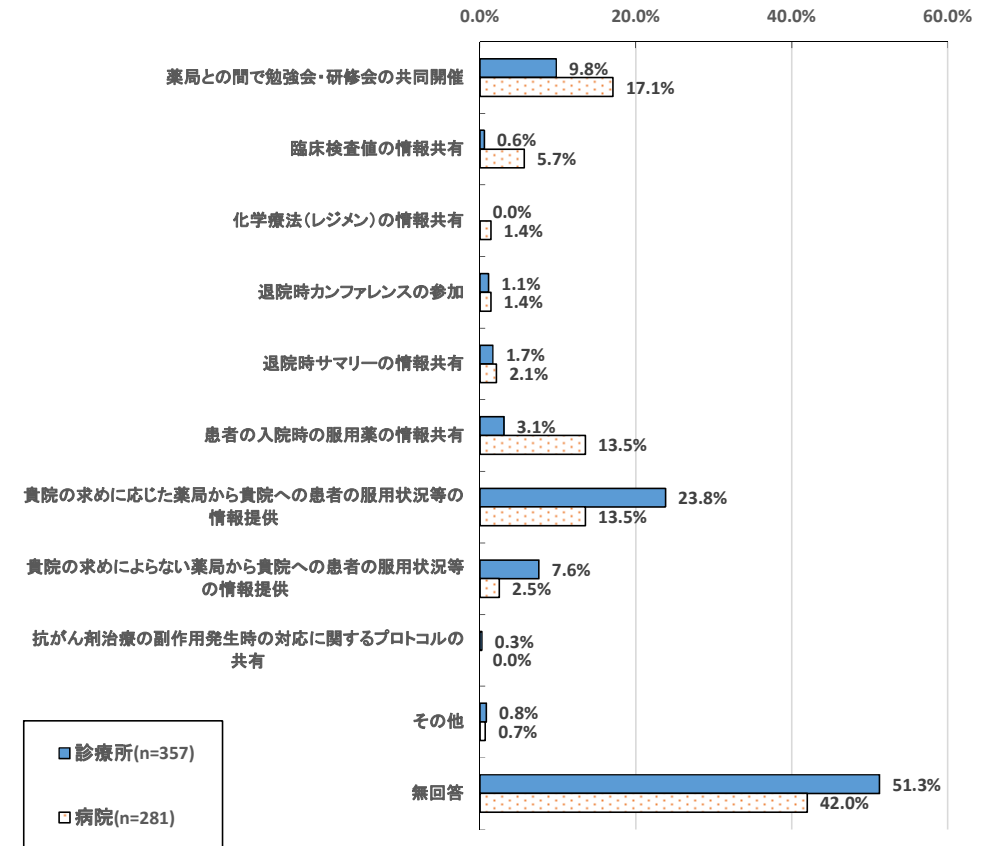
薬局との連携内容をみると、診療所、病院ともに「貴院の求めに応じた薬局から貴院への患者の服用状況等の情報提供」が最も多く、診療所が57.9%、病院が36.0%であった。

特に効果があったものは、診療所では「貴院の求めに応じた薬局から貴院への患者の服用状況等の情報提供」が23.8%、病院では「薬局との間で勉強会・研修会の共同開催」が17.1%とそれぞれ最も多かった。

図表3-3-3 薬局との連携内容(複数回答)



図表3-3-3-1 薬局との連携内容のうち特に効果があったもの(単数回答)

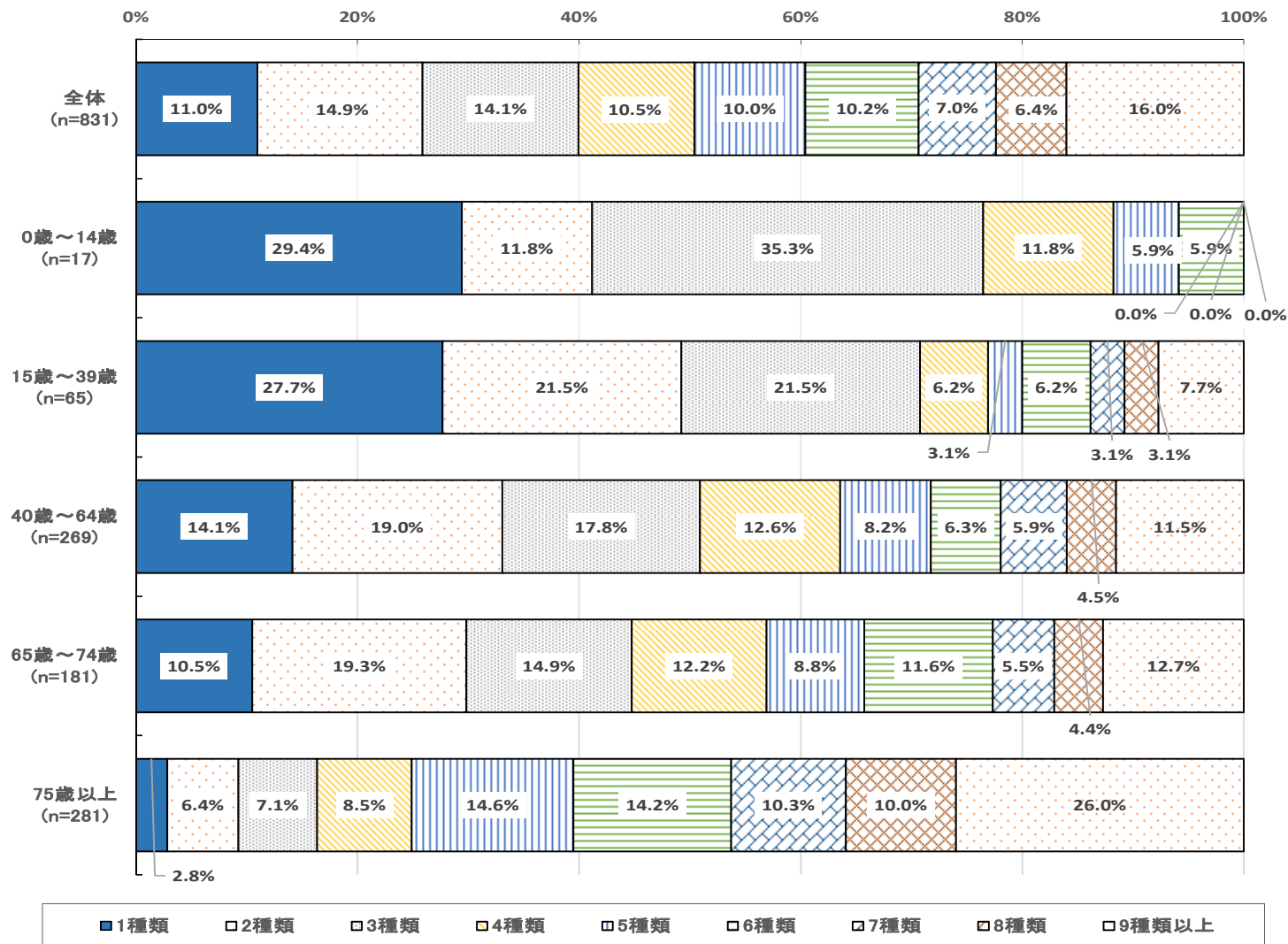


患者調査の結果①

＜現在1日あたり使用している飲み薬の種類＞（報告書p90）

定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬が「ある」と回答した患者について、現在1日あたり使用している飲み薬の種類をみると、年齢階級が上がるにつれて種類数が増加していた。

図表4-2-13 現在1日あたり使用している飲み薬の種類
（定期的に医療機関に行って処方してもらっている患者、年齢階級別）

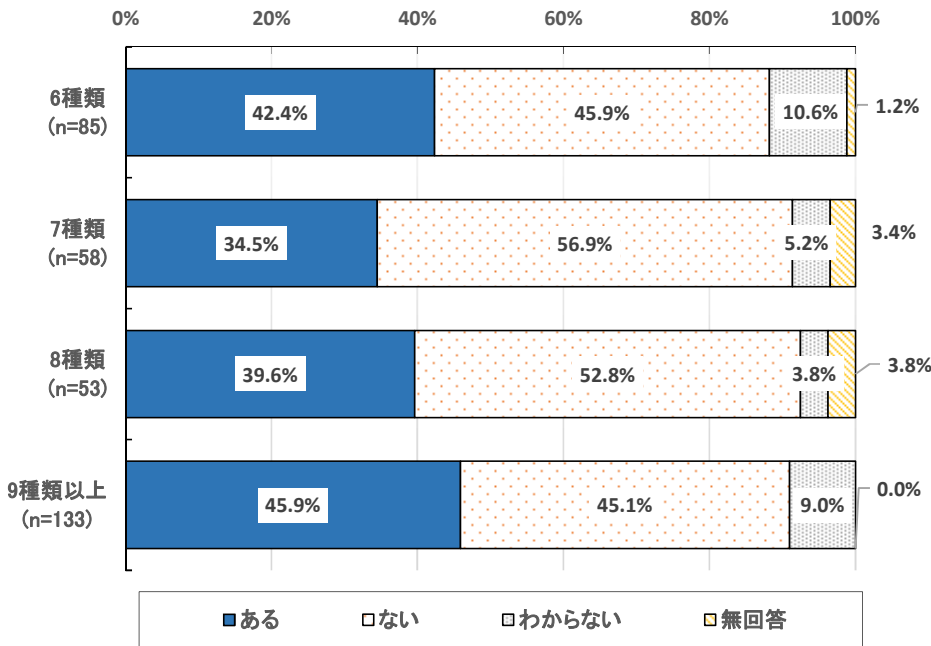


患者調査の結果②

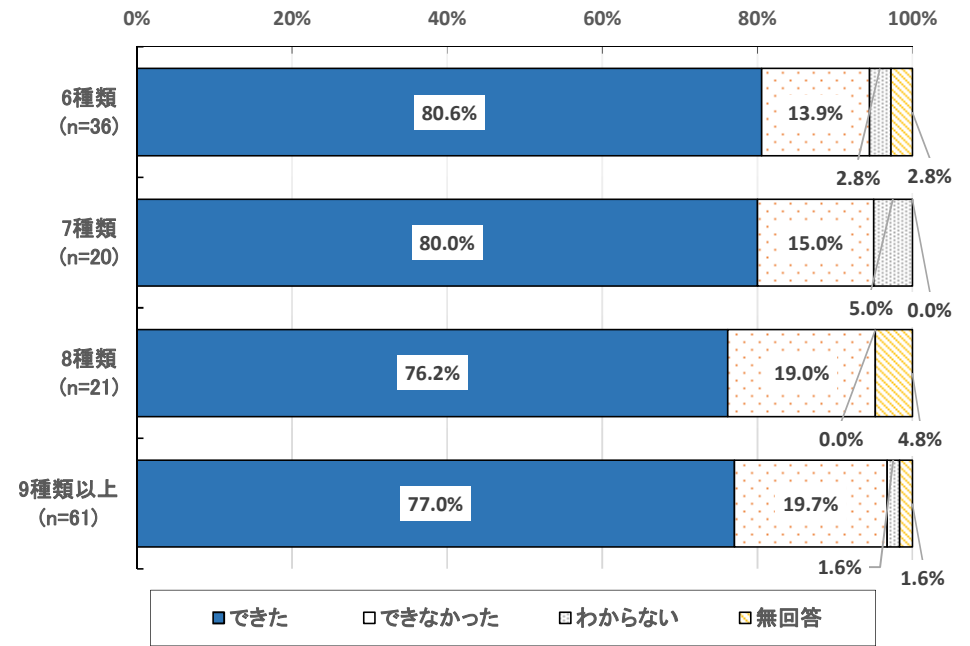
＜薬の種類を減らすことについて医師に相談した経験の有無＞（報告書p97,98）

薬の種類を減らすことについて医師に相談した経験の有無を、飲んでいる薬の種類別にみると、「ある」の割合は、6種類が42.4%、7種類が34.5%、8種類が39.6%、9種類以上が45.9%、であった。
 薬の種類を減らすことについて医師に相談した経験が「ある」と回答した患者について、結果的に、処方してもらう薬の種類を減らすことができたかを、飲んでいる薬の種類別にみると、「できた」の割合は、6種類が80.6%、7種類が80.0%、8種類が76.2%、9種類以上が77.0%、であった。

図表4-4-1-1 薬の種類を減らすことについて医師に相談した経験の有無
 （薬の種類別、6種類以上飲んでいる患者n=329）



図表4-4-2-1 結果的に、処方してもらう薬の種類を減らすことができたか
 （薬の種類別、6種類以上飲んでいる患者n=138）

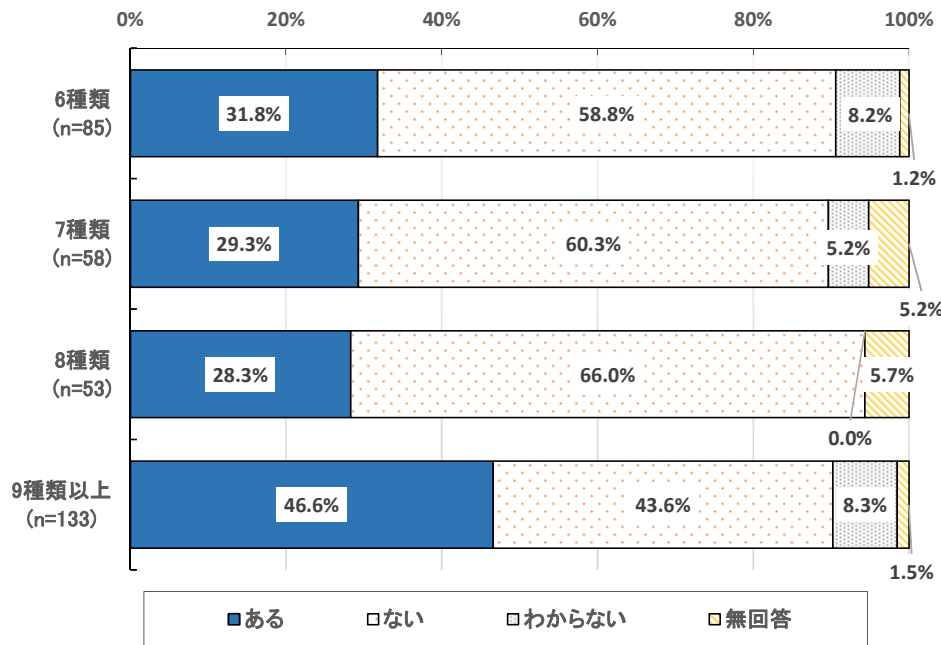


患者調査の結果③

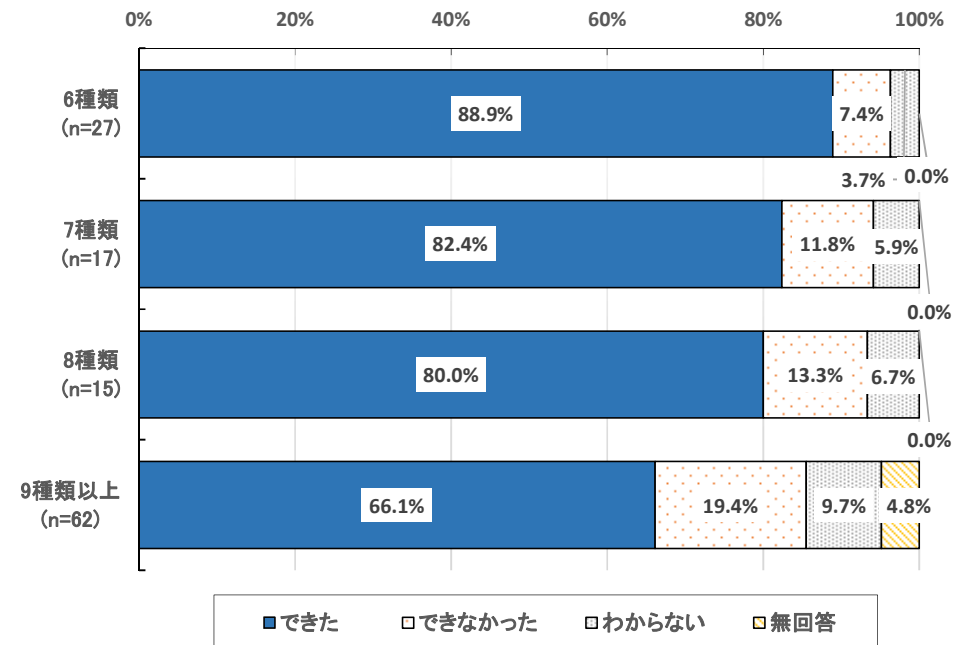
＜薬の種類を減らすことについて薬剤師に相談した経験の有無＞（報告書p99,100）

薬の種類を減らすことについて薬剤師に相談した経験の有無を、飲んでいる薬の種類別にみると、「ある」の割合は、6種類が31.8%、7種類が29.3%、8種類が28.3%、9種類以上が46.6%、であった。
 薬の種類を減らすことについて薬剤師に相談した経験が「ある」と回答した患者について、結果的に、薬剤師に調剤してもらった薬の種類を減らすことができたかを、飲んでいる薬の種類別にみると、「できた」の割合は、6種類が88.9%、7種類が82.4%、8種類が80.0%、9種類以上が66.1%、であった。

図表4-4-3-1 薬の種類を減らすことについて薬剤師に相談した経験の有無
 (薬の種類別、6種類以上飲んでいる患者n=329)



図表4-4-4-1 結果的に、調剤してもらった薬の種類を減らすことができたか
 (薬の種類別、6種類以上飲んでいる患者n=121)

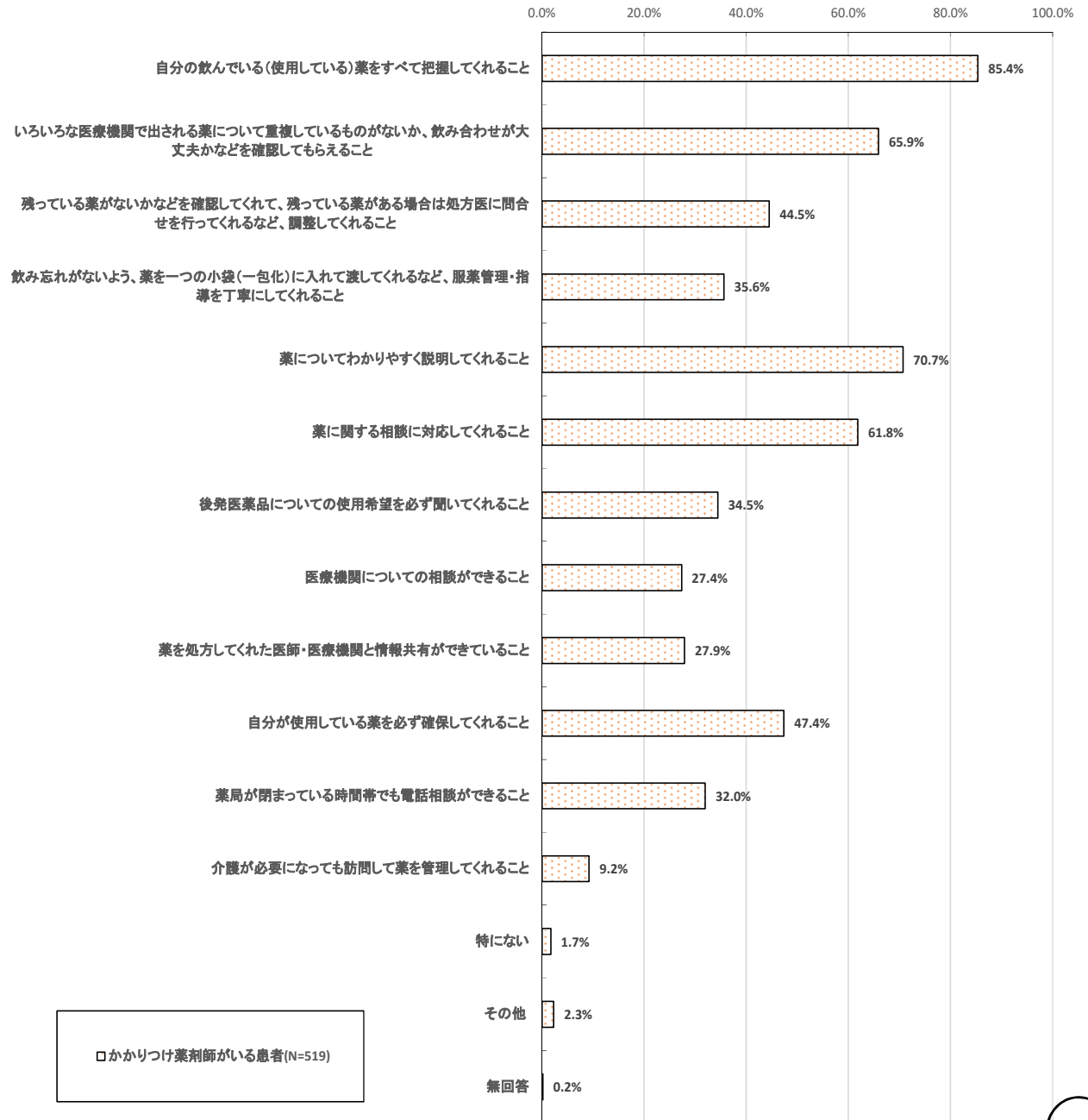


患者調査の結果④

＜かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験＞（報告書p102）

かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者について、かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験をみると、「自分の飲んでいる（使用している）薬をすべて把握してくれること」が最も多く、85.4%であった。

図表4-4-6 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験（かかりつけ薬剤師がいる患者）



(注)「その他」の自由回答としては、以下の内容が挙げられた。
 ・薬剤師に話した症状について、医師に本人が問合せたか確認してくれること。
 ・体調のことなどを気遣ってくれること。等